

文 芸

は る か す

1 集

はるかす

おもい

これは何だろう

あれは何だろう

それは何か……、

それ、おれ・かれ・たれ・なれ・われ・-----

累々と、何処までも連なり広がる、想い、
重い想い。

生老病死の常ならぬ世の理。

その煩惱・その業にあらがい、

無明の想いを抱え潰され、

なおなお無数の想いに浸かり、

暈々たる山稜のみはるかす遥かな、かなた、

無無明のよきものを、

捨身端正さの裡に、探し尋ねる。

宮 坂 直

(義昭)

H25, 4, 29

わかい花

ちいさい^{きみ}君たち、みんな^{かがや}輝いているかな、

ドレドレドーレ、1番星^{ばんぼし}・2番星^{ばんぼし}・3番星^{ばんぼし}・

4番星^{ばんぼし}-----

みんな^{おおぞら}大空の小さな^{ほし}星のように、きらきら

^{ひか}光っていますね。

みんなみんなどれもこれも、^{こころ}心のせいです。

こころがコロコロコロリン、^{あか}明るく^{はず}弾んで
るとき、それはみんなみんな、

^{まわ}周りを^{あか}明るく^{たの}楽しくするのです。

^{かんが}考えてごらん、そんな^{だいじ}大事な^{じぶん}自分の^{こころ}心を、

^{じぶん}自分で^{よご}汚したり^{こわ}壊したりなんて、

とてもできないことだよね。

よご 汚すこと、こわ 壊すことって、どういうこと、

それはいじわる 意地悪・いじめる・きら 嫌う。

どれもかな 哀しい きたな 汚いことば。こころ よご 心が汚れます。

そのはんたいのことば 言葉はなんだろか。

やさしくする・だいじにする・いたわる。

どれもきれいで、こころ おだ 心が穏やかに、

あたた 温かくなることばです。

やさしさ、ひと 人にとって、いちばんだいじ 一番大事なものの。

いつでもどこ 何処でもこのやさしさ、

やさ 優しい こころ わす 心を忘れないひと 人でいましょう。

こころのなか 中に そうしたきれいな はな 花を
そだてます。

どれどれど～れ、

1つ・2つ・3つ・4~つ-----

みんなそろって^{わたし}私たちの^{はなぞの}花園^{ひら}で開きます。

そしていつか、みんなみんないっしょに

^{うつく}美しく^{かがや}きらきら輝く、

^{だい}大スターなのだあ〜。

宮坂直

(義昭)

H25, 3

よきもの

人の原初的行為、活動は、欲望と、争い。
固体保全本能ゆえの自己愛の枷を、
がっちりとかけられている。
であるから、対極にある無償の愛という境地にあ
こがれ、惹かれもします。

神学的哲学で語られるときの、エロスとアガペー。
この対比する二つの心の振幅。
風の中の羽のように
実にはたよりなく、あれこれ気持ちに移ろう。
右往左往する人の情動のなかで、
現実の生身の人間は、
与えられた命をよりよく生きることがを乞う。
その辺りから自分の為ではない、
共に生きる他者の為の杖となるべく
隣人愛へとかたむく。
まぎれもなく、人なるが故のプライドです。

心の揺らぎの霞の中、

『無償の愛の精神』を渴仰。

その膝元へにじり寄り、

真摯に生きてゆく思いに駆られましょう。

人の積極的な感性は、他者を想い、愛しみ、

不遇の他者の悲しみに、心を寄せましょう。

斯うした精神性が、確りウエイトを占めるとき、

悠久なる天かける摂理は、

人は素晴らしき、よきものとほほえみ、

人の靈魂の尊厳を 保証する。

人は悲くも哀れな存在、そして哀しくも美しい。

どこまでも、いとしき、よきもの。

宮 坂 直

(義昭)

H 2 5, 5

平成25年春 刊行

発行者 グランベルテ 代表 河村 久子

発行所 特定非営利活動法人 グランベルテ

〒413-0001 熱海市泉234-46

電話 (0465) 63-8627